

鹿児島県のJAあおぞら

鹿児島県志布志市のJAあおぞら(あおぞら農業協同組合、藤田浩人理事長)が管内農産物のブランド力向上に取り組んでいる。柱が農業と製造業、流通業を融合させる「6次産業化」だ。直営の物産館を8月2日に緑茶などのアンテナショップとして新装開業。サツマイモは干し芋に加工し、通信販売している。

「当JAのブランド緑茶『うるわし和茶』は静岡や京都などの産地に味や品質で負けていない自信がある。国内外の消費者に緑茶の新しい飲み方や食べ方などをアピールする拠点にしたい」。藤

緑茶カフェ・干し芋ネット通販…

「グリーンティーカフェ」ではエスプレッソマシンで抽出した緑茶を楽しむ(鹿児島県志布志市)



農業の6次化に懸ける

田理事長は力を込める。特徴だ。エスプレッソ風10年の節目にリニューアルした「あおぞら一丁目」は地元農産物を使った料理を味わえるのが

同JAの取連弘一茶業のブランド名で売っている。同JAではこの取り組みも組合員の所得向上や地域の雇用増、農産物の付加価値向上につなげ

蕎麦(そば) あおぞら」そうした経緯を踏まえ、が入居。繁盛店の経験をグリーンティーカフェは持つ外食経営者がプロデュース・指導している。(FC)なども含めて国産の価格低迷を受け、JAあおぞらは海外も含めた需要喚起に力を入れている。昨年9月にイスラム教の戒律に沿っていることを示す「ハラール認証」を緑茶で取得。11月には中東の食品展示会「SIALミドルイースト」で「イノベーション賞」を受賞した。

加工用サツマイモの紅はるか同JA管内で今年に比べて大幅に増やしている。昨年12月稼働の「6次化加工センター」で干し芋にして「熟し芋」

コンサルの力も借り製販

よつとしており「今年が勝負だ」(藤田理事長)

7月には公式通販サイト「あおぞら二丁目」も開設。全国の消費者がJAあおぞらの緑茶や干し芋をパソコンやスマートフォン経由で手軽に買えるようにした。

昨年就任した藤田理事長は「営農にしっかり取り組むのがJA本来の姿。自分たちに足りない部分はコンサルタントの知見も借りて農家を元気にする仕組みを整えた」と話す。実際、農業支援ビジネスを手掛ける「アグリ・エナジャイズ(東京都三鷹市)の秋竹慎一代表取締役や、セリュック(東京・港)の執行役員

で、商品などのプロデュースで実績のある宮下大輔氏らが同JAの取り組みを後押ししている。志布志市では同市やJAあおぞら(そお鹿児島農業協同組合、曾於市)などをつくる志布志市農業公社がピーマン農家のIターンで効果を上げつつある。農業の競争力強化を目指す改正農業協同組合法は国会で成立した。約700ある地域農協が創意工夫をしやすくなるため、農協の頂点にある全国農業協同組合中央会(JA全中)の監査指導権をなくす。JAあおぞらは、どこまで存在感を示せるのか。奮闘はききよも続く。

(鹿児島支局長 松尾哲司)

九州

支局

西部編集部 0092-4773-3334
 九州編集部 0093-5771-6101
 賀 0095-2123-4597
 大長 0095-822-1177
 分 0097-532-4930
 本 0096-364-6608
 宮崎 0098-222-2322
 鹿児島 0099-222-2322
 那覇 0098-862-0148